

# 【 津 久 見 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

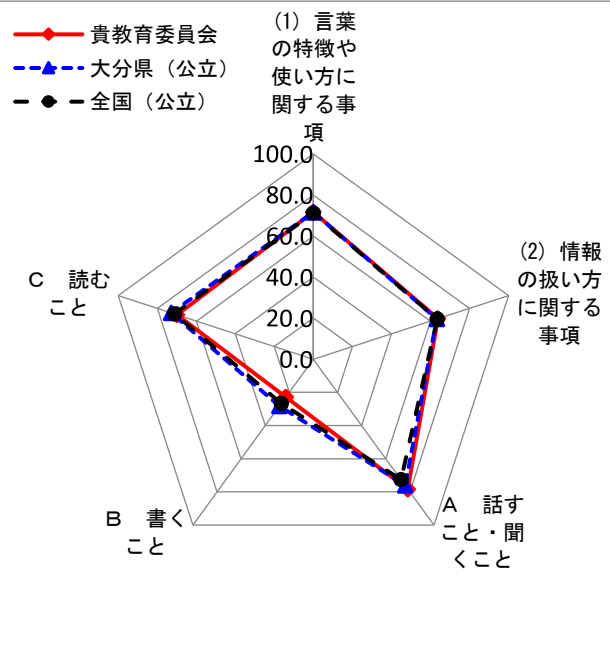
			津久見市	大分県	全国
全体			68	69	67.2
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方	71.2	71.6	71.2
		情報の扱い方	63.8	63.2	63.4
	思考力・判断力・表現力等	A話すこと・聞くこと	78.3	76	72.6
		B書くこと	22.8	28.3	26.7
		C読むこと	69.9	72.9	71.2

#### 小学校：国語

○全体の平均正答率は全国より0.8%上回り、県よりは1%低い結果となっている。

●評価の観点「知識・技能」は全国や県を上回っているが、「思考・判断・表現」になると1%下回る。領域「書くこと」「読むこと」に課題がある。特に「読むこと」においては、昨年度も同様の結果であった。「読むこと」における3問全てで、県を下回っている。「書くこと」における問題を見ると、県より5.5%、全国より3.9%低い状況である。

○無回答率は全て全国・県に比べて低い傾向にある。しかし、全国や県と同様に無回答率の高くなる「記述式」の問題に対応する力を付けていく必要があると感じる。



### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語

#### ○事実や経験を基に感じたり考えたりしたことを書くことの指導の充実

・文や文章を整える推敲の場面や自分のお勧めの本や新聞記事などを紹介する場面で、文章全体の構成や書き表し方などに着目し、字数などの条件をもとに書く活動を設定すること。

#### ○「読むこと」における付けたい力を明確にした単元計画の作成

・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述や描写を基に、想像したことを伝え合う活動を通して、自分の思いや考えを広げることがねらった単元の設定。

#### ○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

- ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
- ・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。
- ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じ取れるように振り返りの設定をする。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

### 1 調査結果の分析

全体		津久見市	大分県	全国
学指導要領の領域	A 数と計算	70.2	68.5	67.3
	B 図形	52.4	51	48.2
	C 変化と関係	72.6	71.1	70.9
	D データの活用	71.3	67.5	65.5

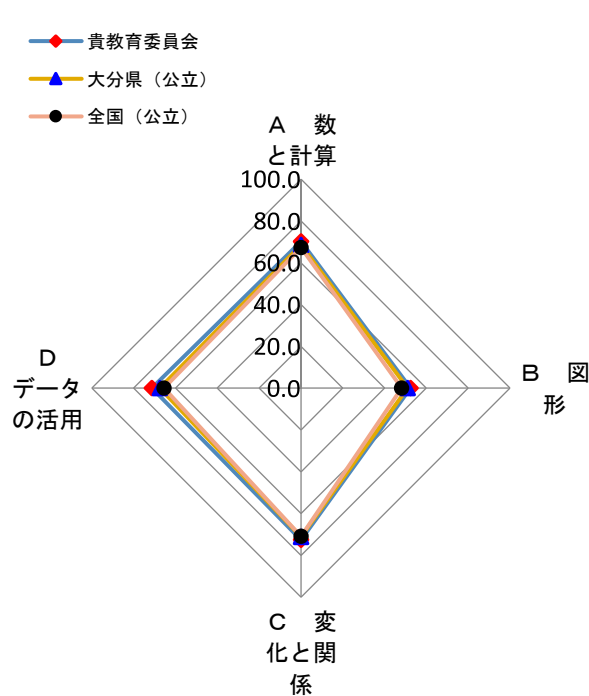
#### 小学校：算数

○全体の平均正答率は、全国・県を上回っている。  
昨年度に引き続き結果を出すことができています。

○評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」においても全国・県を上回った。

○昨年度同様に、良い傾向として「式や言葉を使って説明する＝記述する」問題は、無回答率も低く、正答率も全国・県を上回っている。

○小学校算数においては、観点「思考・判断・表現」においても結果を出しており、さらに記述式の問題にも取り組もうとする児童の姿がわかる。→授業改善が確かなものであると感じている。



### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：算数

#### ○継続的な取組

・立式の意味を考える授業展開は大事にされており、理由を説明するなど記述式の問題は、3年続けて良い結果が出ている。この良い結果を伝えた上で、今後とも「思考し、判断したことを表現する」活動を自信をもって授業の中に取り入れていく。

#### ○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

- ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
- ・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。
- ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じ取れるように振り返りの設定をする。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校・国語）

1 調査結果の分析			津久見市	大分県	全国
全体			68	69	69.8
学習指導要領 の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方	56.2	65.2	67.5
		情報の扱い方	68.5	62.6	63.4
		言語文化	79.4	76.4	74.7
	思考力・判断 力・表現力等	A話すこと・聞くこと	82	81.4	82.2
		B書くこと	59	60.1	63.2
		C読むこと	58.1	62.2	63.7

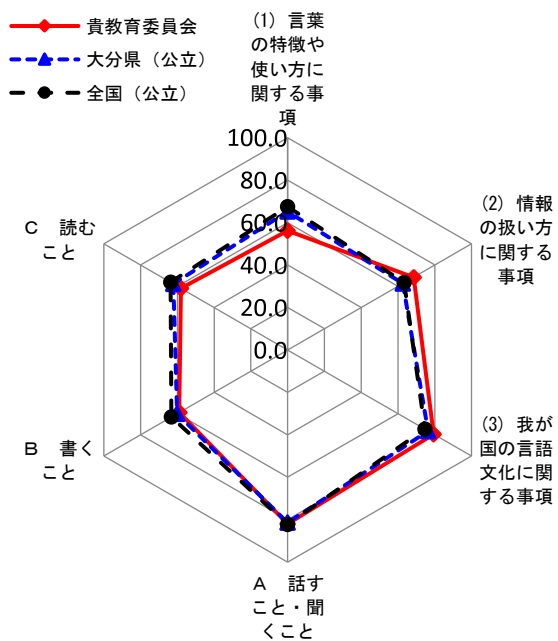
### 中学校：国語

●全体の平均正答率は全国や県を下回る。

●観点「知識・技能」は全国や県よりも小差で上回るが、「思考・判断・表現」は全国よりも3.4%下回っている。特に「読むこと」に課題がある。

●全国と比べて正答率に差があった問題は、文章表現の効果を問う問題であった。全国より10.2%県よりも7.7%低い結果であった。

○津久見市全体として、観点でいうと「知識・技能」の問題は得点に結びつけている傾向にある。多くの生徒は、基礎的な学びを身に付けることができている。



## 2 具体的な改善方策

### 中学校：国語

○単元で付けたい力を明確にする【読むこと】

→授業の終わりにどのような生徒の姿になれば良いのか具体的にイメージする。

・文章の構造と内容を捉え、自分の知識や様々な経験と結び付けて考えをまとめたり広げたり深めたりする。つまり、他者の考えと比較して共通点や相違点を明らかにしたり、一人一人の捉え方の違いやその理由などについて考えたりする学習活動を単元計画を通して設定。

○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

- ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
- ・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。
- ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じ取れるように振り返りの設定をする。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校・数学）

### 1 調査結果の分析

		津久見市	大分県	全国
全体		53	49	51
学指導要領 の領域	数と式	63.8	60.8	63
	図形	31.1	28.7	33.2
	関数	54.8	50.4	51.2
	データの活用	55.4	48.3	48.5

#### 中学校：数学

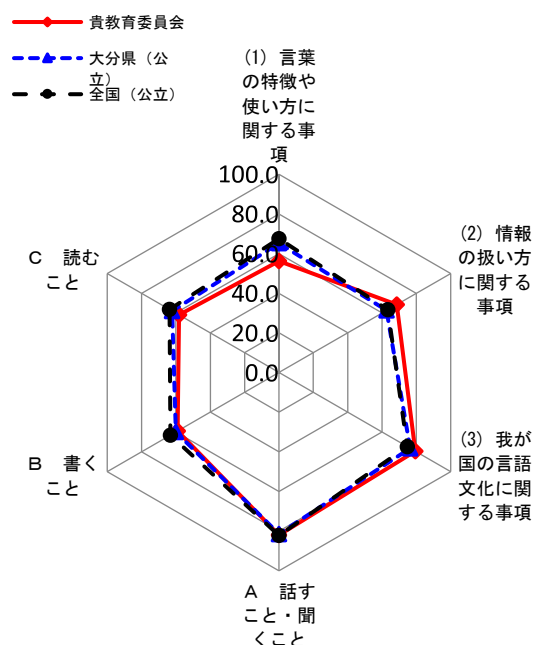
○全体正答率は全国より2%、県より4%上回ることができている。

○領域別正答率では「図形」以外の項目で全国を上回り、県よりは全ての項目で上回っている。

○特に「データの活用」においては全国より6.9%高い結果となった。

●領域「図形」における問題「空間における平面が同一直線上にない3点で決まること」の理解では、正答率が23.6%と低い結果であった。

●正答率が高い一方で無回答率も高くなっており、学力の二極化が見られる。



### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：数学

○単元の評価計画の中で観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける

・「主体的に学習に取り組む態度」の観点を中心におき、評価規準を明確にする。付けたい資質能力を付けた具体的な子どもの姿をイメージした上で授業を実施する。

○図形についての性質や位置関係を理解し、考察し、説明する表現活動

・昨年に続いて「図形」領域では、「知識・技能」は得点を出せているものの、「思考・判断・表現」の観点で落ちてきている傾向がある。理解したことを基に、図形の基本的な性質などを具体的に活用する場面を設定。同時に論理的に説明する学習活動の設定。

○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

- ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
- ・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。
- ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じ取れるように振り返りの設定をする。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

### 1 調査結果の分析

		津久見市	大分県	全国
全体		45	41	45.6
学指導 要領の 領域	1 聞くこと	57.3	53.3	58.4
	2 読むこと	50.6	47.5	51.2
	5 書くこと	23.1	19.1	23.4

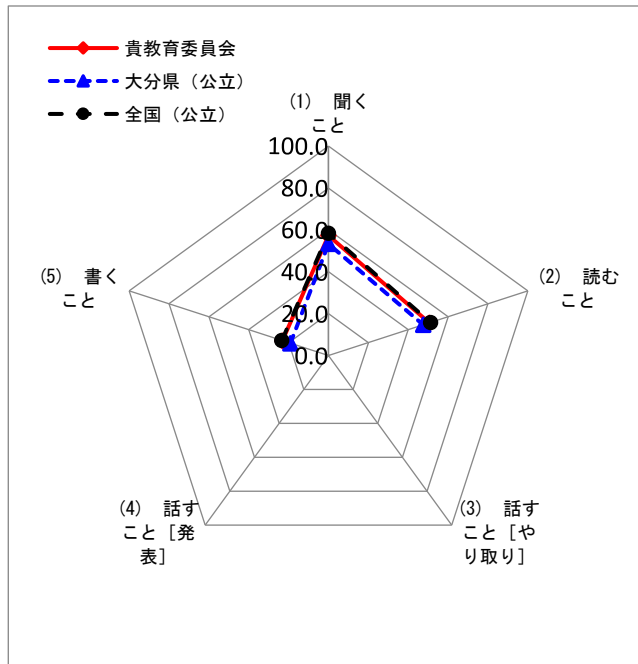
#### 中学校：英語

●全体の平均正答率は0.6%下回る  
が、県よりは4%上回っている。

○評価の観点「知識・技能」は全国や県  
を上回ることができている。

●評価の観点「思考・判断・表現」は全  
国よりも2%低い状況であった。

●領域で見ると「読むこと」では、文章の  
要点は押さえることはできているが、その  
内容を他の情報（文章やグラフ）に置き  
換えることができていると捉えられる。



### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：英語

#### ○「読むこと」の指導においても表現を意識した学習活動

・文章の要点を把握するとともに、文章から取り出した情報をもとに自分の考えを話したり書いたり、図に表したりするなど表現する場の設定を行う。

#### ○領域を統合した言語活動を行うこと

・目的意識のある言語活動を進めながら、どの領域で評価することが効果的であるか領域を統合した単元の評価計画を作成する。

#### ○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

- ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
- ・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。
- ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じ取れるように振り返りの設定をする。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問紙

- 各教科（国語，算数，英語）「好きか」「大事であると思うか」「わかっているか」「将来役立つか」等の項目に対して全国や県に比べると肯定的に捉えている児童が多い。
- 例年、『自己肯定感』の低さが危惧されていたが、「自分に良いところがあるか」に対して「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に捉える児童が86.2%であった。また、「当てはまらない」と答える児童はいなかった。
- 昨年度，授業時におけるICT機器活用について課題が出ていたが，「ほぼ毎日」と答える児童が14.6%，「週3回以上」と答える児童が41.5%と数値は上がっている。ただ，全国や県の「ほぼ毎日」と答える児童が20%を越えていることは把握した上で，ICT機器の効果的な活用を推進していきたい。

#### 生徒質問紙

- 教科に対して「好きか」の質問に対して肯定的に捉える回答は国語47.2%，数学62.2%，英語50%，「わかるか」の質問に対して肯定的に捉える回答は国語68.9%，数学70%，英語58.8%と調査の結果と関連していることがわかる。
- 「授業で学んだことを他の学習で生かしているか」の質問に対して，県が70%を越えているが津久見市は57.8%にとどまっている。
- ICT活用について，「ほぼ毎日」と答える生徒が全国や県が30%近くの回答を得ているが，津久見市の生徒は8.9%であった。「週3回以上」となると54.4%の回答となる。効果的な使用であることが前提であるので，この結果を丁寧に見ていきたい。

### 2 津久見市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

#### 〈組織的な取組の徹底〉

##### ◇学びに向かう力の育成

- ・観点「主体的に学習に取り組む態度」の効果的な評価計画への位置づけ
- ・1時間の中で自己決定の時間を確保する。
- ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じることでできる振り返りの設定

##### ◇個別最適な学びが保障された指導の充実

- ・家庭学習でのタブレットドリルの活用
- ・ICT機器の効果的な活用

##### ◇家庭・地域との課題の共有，改善策の検討

- ・課題に対して当事者意識を持てるような会議内容を設定する。
- ・生活習慣，学習習慣について，子どもと考える取組を行う。



# 【 津 久 見 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 小学校：学校質問紙

- 「授業中の私語が少なく落ち着いているか」に対して全ての学校が肯定的な回答をしている。学習環境や学習規律等、各小学校で組織的な取組が進んでおり、調査対象学年のみならず全体的に落ち着いている。
- ICTの活用による校務の軽減化については、肯定的に捉えていないことがわかる。授業時におけるICT機器の使用についても、活用回数は昨年度に比べると増加傾向にあるが、全国や県に比べると高くはない。
- 児童質問紙において危惧される「家庭学習」「生活習慣」は、学校としては課題の出し方や生活習慣の見直しなど教職員で課題の共通理解を図っている。→家庭学習については教員の指導改善や児童の学習改善につなげる。生活習慣については児童と共に考えていく。

#### 中学校：学校質問紙

- 「授業中の私語が少なく落ち着いているか」に対しては、学年により学習意欲の差が大きいと捉えているようである。→学習規律の見直しは随時学校で行われている。
- 近隣の小学校との連携では、支援が必要な生徒や学力分析等の共通理解を図ることができている。→小学校が付けてきた力（強みとなるところ）を理解して伸ばしていくこと。
- 「教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができたか」「教科等の指導に当たって地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱ったか」という質問に対して肯定的な回答が低い。→教科横断的な学びの見直しが必要である。

### 2 津久見市の学校質問紙調査の結果をふまえて

#### 〈組織的な取組の徹底〉

##### ◇教科横断的に仕組む授業の推進

- ・生きて働く知識・技能を習得するために教科を関連付け、主体的な学びを核とした単元計画の設定

##### ◇個別最適な学びが保障された指導の充実

- ・一授業の中で、支援の必要な児童を見とり・手立てを持つために評価規準の明確化
- ・ICT機器整備の充実

##### ◇家庭・地域との課題の共有，改善策の検討

- ・地域や保護者からの発信を意識して，学力向上会議等を設定